

兵庫・嶋遺跡

所在地 兵庫県出石郡出石町嶋字法安寺

調査期間 一九八九年(平1)一二月

発掘機関 兵庫県教育委員会

調査担当者 渡辺 昇・久保弘幸

遺跡の種類 散布地

遺跡の年代 九~一六世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要



遺跡は、一九八八年以降調査が行われ、多量の人形・馬形・斎串などの祭祀遺物と六点の木簡を出土している。袴狹遺跡の下流に位置している。袴狹川と入佐川の合流点の西側で、さらに一五〇m余りで出石川に注ぎ込む地点である。遺跡周辺は、河口から約二一km上流に位置しているにもかかわらず、標高六m前後と非常に低く、湿地化している。

(出石)

調査結果でも多量の土砂が

流入しており、常に氾濫にあつていたようである。調査は、小野川放水路計画に伴う事業の確認調査として行われたものである。旧河道の一部を確認したものの、明確な遺構はなく、周辺の祭祀遺跡(砂入・袴狹・田多地・小谷)のように多量の遺物も出土していない。

四世紀の古式土師器が大半で、斎串二点が出土している。木簡は祭祀遺物出土層より上から出土していることから、斎串の時期よりも下る可能性が高いと思われるが、断定できない。今後も調査が行われるので、その際に時代決定できることを期待したい。

8 木簡の篆文・内容

(1) 「令給

(167)×18×2 019

出土遺物が少く、木簡も一点で十分な検討を加えるまでには至っていない。周辺の袴狹遺跡、砂入遺跡などとの関連を考える必要があるうかと思われる。本遺跡そのものに木簡に伴う遺構が存在する可能性は非常に薄いものと思われる。内容的にも祭祀色の弱いことから、流されたものと推定される。

(渡辺 昇)